

このたび、理事の皆様のご推挙により会長に就任することになりました堀口芳嗣です。

長い歴史と輝かしい伝統をもつ特定非営利活動法人埼玉県キャンプ協会の会長職を務めさせていただくことは私にとって大変光栄なことでありますが、社会情勢のめまぐるしい変化の中で舵操りを行うということに責任の重さを痛感しているところであります。中村正雄副会長、瀧深徹専務理事、奈良原主子常務理事、引間紀江常務理事、中島悠介事務局長の協力を得て全力を尽くす決意であります。会員の皆様のご支援を心からお願いいたします。



さて、With コロナの時代が重なり、埼玉県キャンプ協会としても約2年間にわたり主催事業は変更や中止を余儀なくされましたが、こうした状況下においても皆様からのご支援・ご協力を得ながら協会運営を行っております。例えば、会員の皆様方から記事を投稿していただく「Come on SCAJ」事業では、コロナ禍であっても前向きにキャンプを楽しむ報告や情報提供を数多く紹介していただき、たくさんの元気をいただくことができました。

新体制となり、埼玉県キャンプ協会としての新たな挑戦に取り組みたいと考えております。その中でも特に次の三つの挑戦を重点項目としたいと考えています。

第一は組織キャンプの魅力の発信を強力に行うことです。ご承知の通り、会報誌「きぬた」、ホームページ等を通して組織キャンプの魅力をこれまでも定期的、継続的、魅力的に発信してきました。しかし、まだまだ限られた方にしか活用されていない現状があります。そこで、新たな正社員の加入を機に発想の転換を図り、広報活動の幅を広げていきたいと考えております。そして、一人でも多くの会員の方に魅力をお届けできればと考えております。

第二は多くの協会会員の皆様に参画していただく協会運営を柱のひとつにすることです。当然のことですが、埼玉県キャンプ協会会員の皆様は、時間があつたときに、興味のある分野で、経済的負担にならない範囲で事業に参加して組織キャンプの魅力を体感していただいております。しかし、会費を納めていただくだけで、ご自身のメリットとなっていない方の存在があります。そこで、多くの会員の皆様に参画していただき「埼玉県キャンプ協会の会員でよかった。」と言ってもらえるような協会運営をしていきたいと考えています。具体的には、長い期間、会員登録をしている方に近況報告をしていただく機会を設けたり、会員の皆様が実際にキャンプに出掛けて活動した内容や利用したキャンプ場の紹介等のレポートをしていただいたり、キャンプ指導者養成講習会の一部プログラムに参加して自身のキャンプスキルのブラッシュアップをしていただく等、多くの協会会員の皆様に参画していただく協会運営に取り組み、会員の皆様にお得感を感じていただこうと考えています。

第三は「外」との協調であります。日本キャンプ協会は、多くの人々が豊かな自然や身近な日常で、多種多様なキャンプを安全に楽しくおこなえる状況をつくれるように、今後の5年間の社会状況に対応した中期事業計画「ビジョン2025」を「社会の隅々までキャンプを届けよう」のキャッチフレーズの下でスタートしました。また、関東ブロックでは、気軽に、身近なところからキャンプの魅力を考える取り組みをスタートしました。埼玉県キャンプ協会としてもこのような「外」との関係を大切にしたい取り組みを積極的に推進していきたいと考えます。

以上三つの具体的な挑戦を申し上げましたが、これらの活動を通して会員ひとりひとりの交流を活発にする場所を提供することが埼玉県キャンプ協会としての大きな役目であると思います。キャンプ情報の交流の場はもちろんのこと、世代を超えてキャンプで交流できる機会を増やしたいと考えます。ひとりでも多くの会員が埼玉県キャンプ協会会員であることに意味を見出していただくことを期待しています。

最後になりましたが、金子和正前会長はじめ役員の方々、各部会等で活躍された会員の皆様に心から敬意を表し、引き続きご支援賜りますようお願いして就任のあいさつといたします。